

平成30年9月に発生した地震は、安平町で震度6強にもかかわらず、発生から30分後には対策本部が設置されている。職員の動きが速く対応力の素晴らしさを感じた。また死者が一人もいなかったのは、町民の災害に対する意識の高さがあると思われる。職員の話の中で、民間業者との提携が重要と言われた。具体的には、支援物資の仕分け管理を民間宅配業者に委託したこと。専門業者なので手際よく処理され、管理されていたとのこと。提携の重要性を感じた。

令和3年11月29日
北海道胆振東部地震の
状況視察（安平町役場）



令和3年11月30日
江別市河川防災センター

石狩川と千歳川の合流地点にあり、平成14年にオープンしている。特に、過去の災害で堤防の決壊が多かったため、その関係の資材が多くみられた。備蓄土砂8000m³・根固めブロック3t型大型連節ブロック等の物が置かれている。これだけの資材を備蓄するのは大変なことだが、それだけに過去の災害のすごさを感じた。備蓄の仕方ですっきりとしたのは、大型連節ブロックを1500枚地中埋設していることである。災害時には重機で掘り出さなければならぬが、土地空間をうまく使った備蓄の仕方だと思った。



厚生文教常任委員会

研修報告

令和3年12月13日～15日

大分県佐伯市にて、社会福祉法人「子ども未来ネット弥生」が運営する“弥生こども園”を視察した。

“子どもは未来の宝物”地域を基盤とした子育て支援ネットワークで民間運営の黒字経営。地域共生社会づくりで来年度は赤字の介護施設を立て直す。子ども目線の施設づくりが人気を呼んでいる。

熊本県熊本市の“市立城東小学校”にてタブレット端末を活用した授業を視察した。

特別支援学級、不登校、病欠の生徒にも活用している。学力アップより、今後を生きる資質能力の開発が目的である。

コミュニケーションツールとして使いこなしてもらいたい。

